

# 心臓財団 季報 No.165

QUARTERLY REPORT OF JAPAN HEART FOUNDATION

November 10, 2001

財団法人日本心臓財団

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル835区-A

Tel 03-3201-0810 Fax 03-3213-3920 e-mail:info@jhf.or.jp http://www.jhf.or.jp/

## 平成13年度日本心臓財団研究奨励

### 第27回研究奨励、第10回入澤宏記念研究奨励 11名を選考

当財団事業の柱の一つである少壮研究者を対象とする研究奨励の平成13年度事業に全国から102名の応募があり、永井良三東京大学教授を委員長とする選考委員会が9月21日に開かれ、次頁に掲載の11名が選考されました。

40歳未満の研究者で心臓血管病の成因、治療、予防等すべてにわたる研究領域を対象とする第27回日本心臓財団研究奨励に10名、基礎研究に取り組んでいる30歳未満の若手研究者を対象とする第10回日本心臓財団入澤宏記念研究奨励に1名が選ばれました。奨励金はそれぞれ100万円で、贈呈式は来る12月7日に東京・銀行倶楽部において行われます。

日本心臓財団研究奨励は1973年に始まり、今回で340名、これまでの助成金額は3億1,600万円となりました。1991年に亡くなられた入澤宏当財団評議員(国立生理学研究所名誉教授)は、若手研究者の育成に情熱を傾けておられ、そのご遺志により先生のご

寄付をもとに設けた基金より、さらに若手の将来性のある研究者を翌1992年より奨励してまいりました。本奨励金も今回が最後となりましたが、10年間続けていただいた入澤宏先生にあらためて感謝の意を捧げます。長いあいだありがとうございました。

選考委員長	永井 良三	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授
選考委員 (五十音順) 敬称略)	相澤 義房	新潟大学医学部内科学第一教授
	飯野 正光	東京大学大学院医学系研究科細胞分子薬理学教授
	上島 弘嗣	滋賀医科大学福祉保健医学教授
	大川 真一郎	東京女子医科大学附属第二病院内科教授
	片桐 敬	昭和大学医学部第三内科学教授
	下門 顕太郎	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科血流制御内科学教授
	高本 真一	東京大学大学院医学系研究科心臓外科学教授
	多久和 陽	金沢大学医学部第一生理学教授
	友池 仁暢	国立循環器病センター病院長

#### 心臓財団のホームページに心臓病自己診断ページが加わりました。

インターネットの普及は、当財団を支えてくださる心臓血管病の専門医の先生方と身体の変調に不安を持つ一般の方々をつなぐチャンスです。

心臓財団設立30周年を記念しまして、ホームページの充実を図りました。是非一度ご訪問してみてください。

URL <http://www.jhf.or.jp/>

#### 一般の方々向け

- ・心臓病の自己診断
- ・循環器専門医に聞いてみよう
- ・セカンドオピニオン(主治医以外の医師の意見)

#### 研究者・パラメディカル向け

- ・循環器疾患データベース
- ・心疾患診断チャート

## 平成13年度日本心臓財団研究奨励対象研究者

### 第27回日本心臓財団研究奨励

(五十音順・敬称略)

番号	氏名	所属	研究課題
1	赤澤 宏 (34歳)	千葉大学大学院医学研究院 循環病態医学医員	心筋特異的転写因子CSXと相互作用する新規LIMタンパクCALの機能解析
2	柿沼 由彦 (39歳)	筑波大学臨床医学系 循環器内科医員	病的肥大心と生理的肥大心の成立機序の差違に関する分子生物学的検討
3	桑原 宏一郎 (34歳)	京都大学大学院医学研究科 臨床病態医学 日本学術振興会特別研究員	心筋胎児型遺伝子発現調節因子NRSFの心不全発症における役割の解明
4	竹石 恭知 (38歳)	山形大学医学部第一内科講師	心筋細胞でのBMK1活性化の意義：トランスジェニックマウスによる検討
5	谷本 啓司 (34歳)	筑波大学応用生物化学系講師	大腸菌人工染色体・遺伝子導入マウスによる血圧制御関連転写因子の解析
6	環 慎二 (39歳)	滋賀医科大学第一内科助手	地域一般住民での高血圧関連遺伝子の遺伝要因と生活習慣に関連する研究
7	中田 和人 (32歳)	筑波大学生物科学系講師	ミトコンドリア病モデルマウスを用いたmtDNAの突然変異と心筋症の因果関係の解明
8	東 幸仁 (39歳)	広島大学医学部第一内科医員	末梢性血管疾患に対する骨髄細胞移植 - 新生血管での血管内皮機能評価
9	縦山 幸彦 (39歳)	防衛医科大学校第一内科助手	動脈硬化病変形成における感染症の関与とInterleukin関連遺伝子多型の影響
10	山下 潤 (35歳)	京都大学大学院医学研究科 分子遺伝学助手	胚性幹細胞を用いた内皮分化制御因子の同定と内皮再生治療への応用

### 第10回日本心臓財団入澤宏記念研究奨励

(敬称略)

番号	氏名	所属	研究課題
1	石井 優 (28歳)	大阪大学大学院 医学系研究科情報薬理学助手	G蛋白質制御カリウムチャネルの生理的調節機構とその分子基盤の解明

## 第6回日本心電学会学術奨励賞決まる

第18回日本心電学会学術集会在10月4日・5日の両日、東京・日本都市センター会館で平岡昌和東京医科歯科大学難治疾患研究所教授を会長に開催され、5日の総会において当財団が後援している第6回日本心電学会学術奨励賞の授賞式が行われました。

これは日本心電学会の会員で、心電学の進歩に寄与

する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される40歳未満の研究者に贈られるものです。

今回は鈴木将(千葉大学大学院医学研究院薬理学)、林明聡(日本医科大学第一内科)、松岡哲郎(大阪大学大学院医学系研究科薬理学第二)が最優秀賞に、難波径豊(香川県立医療短期大学臨床検査学科)、横式尚司(北海道大学大学院医学研究科循環病態学)が優秀賞に選ばれました。

## 刊行案内

### 「ふしぎの国の医療」

朝日新聞編集委員 田辺 功著  
ライフ企画刊 四六判  
定価1,600円 2001年7月15日発行

さまざまなふしぎ、おかしさを「病院のふしぎ」「感染対策のふしぎ」「薬のふしぎ」「国のふしぎ」「業界のふしぎ」「医師・患者のふしぎ」「日本の医療、ここがおかしい」の7章にわけて、だれもがわかるようにやさしく解説しています。医師・看護婦さん始め、患者さんとそのまわりの方々に広く読んでいただきたい。……著者より



## 世界ハートの日(9月30日)健康フェア - とげぬき地蔵尊境内にて健康相談 -

World Heart Federation (WHF:世界心臓連合)より今年9月30日を『世界ハートの日』とすることを決定した旨の連絡がありました。世界心臓連合は、95カ国から集まる循環器学会および心臓財団により構成されており、わが国からは日本循環器学会と日本心臓財団が加盟しております。今年の世界ハートの日のテーマは“a heart for life”で、心臓疾患および脳卒中を予防して健康的な生活を維持しようというものです。喫煙、高血圧、不健康な食生活、運動不足、糖尿病、肥満は、心臓疾患および脳卒中に共通の危険因子であり、タバコを排除した生活、動物性脂肪の制限および低コレステロールの健康的な食事をとること、血圧をチェックすることなどが、心臓疾患および脳卒中の予防の始まりと呼び掛けております。

同連合は世界にこのメッセージを発信し、行動を起こすよう求めてまいりました。当財団ではこれを受けて、心臓疾患をはじめとする生活習慣病の予防・健康づくりを目指し、9月30日(日)に日本で有名な東京・巣鴨の高岩寺、とげぬき地蔵尊の境内にて、午前10時から午後4時まで体験コーナーとして血圧、体脂肪等の測定と、健康についての悩みや不安を医師に相談する場を設けました。

次の方々が相談者としてご参加くださいました。ありがとうございました。

春見 建一 日本心臓財団副会長 国立療養所中野病院名誉所長  
 杉本 恒明 日本心臓財団常任理事 関東中央病院院長  
 細田 瑛一 日本心臓財団理事 榊原記念病院院長  
 大塚 雄司 駿河台日本大学病院外来医長

今井 忍 駿河台日本大学病院不整脈研究班班長  
 鈴木 寿英 駿河台日本大学病院透析室室長  
 高橋 敦彦 駿河台日本大学病院健診センター医長

(順不同・敬称略)

平成13年9月30日の日曜日、日本心臓財団の企画で、巣鴨の高岩寺、とげぬき地蔵尊方で健康相談が行われた。この日は世界ハートの日ということで、世界各地で健康フェアが行われたのである。

いつも協力してくれる業者のお陰で、今回も体脂肪率・血圧・指尖容積脈波による血管年齢の測定が行われた。

健康相談には日本大学第二内科グループの医師達の応援を得た。私にとって初めての街、巣鴨は意外に大きな街であり、地蔵通りの商店街は大変な賑わいであった。衣料品の店が多く、どの店にも沢山の老若入りが入っていた。



健康相談のブースの一つに坐ってみた。

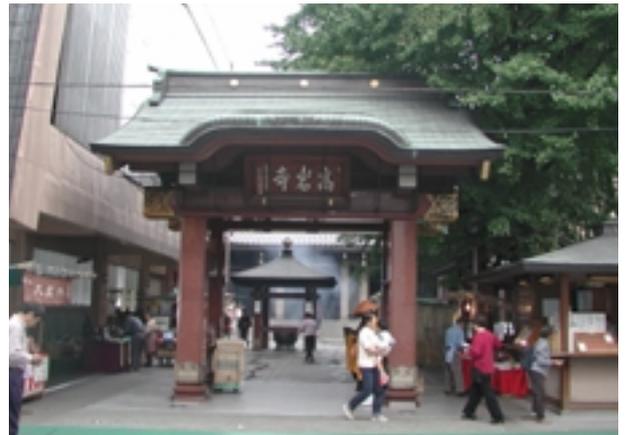
78歳・女性:年金を貰い損ねたので、働かなければならない。働かしてもらえないことは有り難い。ただ、そのためにも病気などはしておれないと、説明を聞く顔は真剣であった。

60歳・男性:胃がシクシク痛いという。胃の住民検診を受けられなかったが、どこかで検査をしてその費用を区で持ってもらえないだろうかと相談された。



別の78歳・女性：血管年齢48歳という結果を持ってやってきた。杖をつき、見た目にはヨボヨボしている。関節炎で入院していたのだそうである。血圧も脂肪率もよく、血管は若いようだが、転ばないようにねと説明する。この血管年齢なるものは大変面白かった。血管年齢が若いとともに喜んでやり、老け込んでいると、これは指先の動脈だけでのことだからとか、緊張していたのでしょとか慰めて、動脈硬化が進まないようにと指導した。用意した心臓財団のパンフレットも沢山、持ち帰ってもらえたようであった。

正面のお寺の左脇に黒く光る地藏尊があった。朝は誰もいなかったが、前に鉄柵があって、「2列にならび、左右からお洗い下さい」と書かれた札が立っていた。しばらく経って見に行ったら、鉄柵は順番待ちの人達で一杯になっていた。寺の門にはお坊さんが2人たっていて、寄進する人が何人か続いていた。境内には沢山の屋台が並び、ベンチにはお年寄りのカップルが幾組も坐っていた。健康相談の合間をみて、賑やかな通りを歩いてみた。通りは都電の道路遮断機まで続き、手前に猿田彦之命大社があった。名前は大きい小さい祠のような社であった。それでも信心深い何人かの参詣者が熱心に祈っていた。



店が数多くあって、しかも大勢の人が店先に集まっていたのが、煎餅屋と餅菓子屋であった。帰りしなに塩大福と豆大福を買ってお土産にした。私の高齢の母は、土産の大福を一目みるなり、鶯鴨に行ったのかと問うた。かつて、町内のお年寄り達で、しばしば行ったところだったそうであった。バスを仕立てて行ったようであった。当時、一緒に行った、あの人、この人、今は亡くなったご近所の人達の名前もつぎつぎと出て、しばし、懐かしかった。

健康フェアのお陰で鶯鴨の街、地藏尊の街を知り、街の活気と住む人達の力強い信心と生命力に共感するところがあった。そしてその街は、私の母の懐かしい思い出もある街であった。楽しい一日を送らせていただいた。



左から杉本恒明、春見建一、細田礎一先生

平素はお世話になって仲良くなった後援企業の方々やマスコミ関係の方々もやって来て、お菓子を差し入れてくれたりした。いつもご苦勞をお掛けする協力業者の方々、医師の方々、財団の方々、こうした方があって、心臓・血管病予防のボランティア活動は今日もまた一歩、進められていった。

心臓財団関係者の一人としての立場から、今回参加の皆さんに心からお礼を申し上げたい。

常任理事 杉 本 恒 明

## 豊かな暮らしフェア2001開催

12月9日東京国際フォーラムにて

当財団は昨年設立30周年を迎え、1年をかけ全国各地で講演会など記念事業を実施しております。この記念事業の一環として来る12月9日、東京国際フォーラムにおいてラジオたんぱ/BSC主催の「豊かな暮らしフェア2001」に参画いたします。

体験コーナーとして血圧、体脂肪等の測定と、禁煙相談など健康についての悩みや不安を医師に相談する

場を設け、健康の大切さを理解していただきます。ふるってご参加ください。

日 時：2001年12月9日(日)11時30分～18時30分  
会 場：東京国際フォーラム Bブロック ホールB(7階)  
およびレセプションホール(5階)  
(東京都千代田区丸の内3-5-1)

## 第2回エコー・ウォーカソン2001イン横浜開催

当財団に3,953,000円寄付

歩くことによってチャリティに参加できるというウォーキング運動のエコー・ウォーカソンが、10月21日(日)横浜で開催されました。「歩くことは心臓の強化につながる」という大会主旨のもと、心臓病で苦しんでいる人のために役立てようと、チャリティ金はそれぞれ開催国の「HEART ASSOCIATION」に寄付されており、今回の第2回大会も昨年の東京開催に続いて日本では当財団に寄付されました。

国際会議場パシフィコ横浜での開会式では、村山正博当財団評議員(聖マリアンナ医科大学学長)より、「健康のため毎日1万歩は歩きましょう」の挨拶があり、9時、10時、11時の3回に分かれスタートしました。コースは、自動車道、海岸通り、元町通り、外人墓地、港の見える丘公園、山下公園、赤レンガパーク、新港パークを歩きパシフィコ横浜に戻るといった、海を眺め、古きよき横浜から歩き進むにつれ、近代的な建造物と様変わりするまわりの景色に飽きない全行程10kmでした。

そして1km歩くごとに100円、10km完歩すると1人あたり1,000円が寄付されるもので、3,948名が完歩し、エコー・ウォーカソン実行委員会より3,948,000円が当財団の杉本恒明常任理事に手渡されました。このほかに5,000円のカンパがあり、合計3,953,000円となりました。これを受け、杉本常任理事より本日参加された方々の一步一步が多額のチャリティ金を生み、またご自身も10km歩き、健康の増進に役立ち、なおかつ素晴らしい横浜をあらためて見ることができ、感謝しますとのお礼が述べられました。

参加された当財団の会員の方のメッセージを次に掲

載いたします。

先般の「健康フェア」「エコー・ウォーカソン2001イン横浜」の御案内、会報と共に大変感謝しております。本日は初めてウォーキングに参加致しましたが大変快適でした。お陰で本日は朝から27,546歩歩きました。

11時のスタートでしたが1時30分にゴール致しました。少し時間が掛かりすぎたようです。村山先生はお元気ですね。私の万歩計で正味13,670歩途中、外人墓地で6,900歩でした。東京から参加しましたので、約2倍歩いたこととなります。(中略)健康フェアで血管年齢52歳と言われましたが、先生もおっしゃるように歩くことの成果だと思います。他には毎日曜日の障害者対象のボランティア水泳を20年間続けております。最近は火曜日夜に合気道、土曜日午後ダンスをやっております。足腰の筋肉とからだのバランスを保つことで共通点があります。最近の運動に対する感想です。



### 岩佐凱實顧問・前会長逝去

当財団の岩佐凱實顧問・前会長は、10月14日、肺炎のため聖路加国際病院で逝去され、95年の生涯を閉じられました。

1906年、東京に生まれ、富士銀行の前身の旧安田銀行に入行され、富士銀行の頭取を1963年から71年まで、会長を75年まで務められました。また経団連副会長・評議員会議長、経済同友会代表幹事、全国銀行協会会長など要職を歴任されました。

1970年、当財団設立と同時に理事に就任され、80

年から96年まで16年間会長を務められ、その後顧問にられました。富士銀行のほかに数多くの団体、企業に関係されましたが、中でも日本心臓財団は常に五本の指にはいる存在と当財団への関心度を示され、当財団発足から今日にいたるまで31年間、当財団の歴史を作りながら当財団とともに歩まれてこられました。まさに経済界、財界側よりご尽力いただき、当財団をリードされました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



## 初めて海外留学する研究者に 1人300万円を10名に助成

協力:パイエル薬品(株)

初めての海外留学で、独創的な研究や萌芽的な研究を行う循環器領域の少壮研究者10人に1人当たり300万円の助成(総額3,000万円)を行っています。応募は、35歳未満の日本人で、すでに留学先の承諾を得ており、2002年度中に出発し、1年以上留学することなどが条件となっています。応募期間は11月30日までなので、希望者は至急当財団までお問い合わせください。

## 心血管病の研究者に助成

テーマ「心疾患の薬物療法(基礎と臨床)」

協力:ファイザー製薬(株)

心血管病の研究を行う40歳未満の研究者を対象に助成を行います。今回のテーマは「心疾患の薬物療法(基礎と臨床)- from bench to bedside」では、優秀課題12件を選考し、それぞれに50万円、さらに12件の中から翌年の研究発表会で最優秀課題4件に各200万円を助成します。原則として臨床系教室および病院に所属する人が対象です。

応募締切りは12月17日です。

## 循環器の分子生物学的研究者に 1人100万円を10名に助成

協力:ゼリア新薬工業(株)

循環器領域で分子生物学的研究の進歩に著しい貢献が期待される40歳以下の研究者10人に、1人当たり100万円の助成(総額1,000万円)を行っています。臨床教室およびそれに準ずる施設で研究をしている人が対象です。また過去にこの助成を受けた方はご遠慮ください。

応募期間は本年の12月15日から来年2月15日です。

## 秋の叙勲

平成13年秋の叙勲で大賀典雄氏(当財団理事)が勲一等瑞宝章を、小町喜男氏(当財団前理事)が勲三等瑞宝章を受章されました。

## 人の動き

評議員浦上敏臣氏より辞任の申し出があり、後任に吉野泰生氏(住友生命保険相互会社会長)が、川端常樹氏より後任にクリストフ・ホーバツハ氏(日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社社会長)が、それぞれ9月1日より就任されました。

## ご支援ありがとうございます

### 当財団のご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2001年8月~2001年10月)

野平嘉代子様	千葉県市川市	
河合 朋子様	東京都狛江市	30万円
匿名	東京都世田谷区	20万円
工藤 紀子様	神奈川県神奈川区	10万円
斉藤 照子様	東京都日野市	10万円
小川 勝様	東京都中野区	5万円

### 当財団の賛助会

個人賛助会員として本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。(敬称略:2001年8月4日~10月31日)

東 秋弘	木村 一雄	高木 宏	比江嶋一昌
新 博次	久家 英子	高田 重男	アランB.ブーツ
石井 當男	クリストフ・ホーバツハ	高津満利子	星 聡子
石川 雄一	甲谷 哲郎	高本 眞一	松田 暉
伊藤 隆之	小林 正	高安 徹雄	松原 達昭
今井 昭一	坂本 知浩	武内 敦郎	松元幸一郎
大槻 俊輔	佐藤 友英	田中 時子	皆越 眞一
大道 久	下光 輝一	田中 元直	室原 豊明
大和田憲司	白土 邦男	堤 健	矢崎 義雄
岡田幾太郎	杉下 靖郎	坪井 栄孝	安井 昭二
荻野 和郎	鈴木 一夫	富田 稔	山科 章
奥村 健二	鈴木 忠	中野 赳	吉崎 鴻造
梶原 長雄	鈴木 典夫	橋本敬太郎	渡辺 務
木之下正彦	千田 彰一	濱田 希臣	渡部 良夫

### ご寄付ならびに賛助会加入のお願い

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられております。ご寄付はいくらでも受けさせていただいております。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額3万円、2万円、1万円、法人の場合は5万円で何口でも差し支えありません。

なお、当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、寄付金・賛助会費については税制上の優遇措置が講じられております。ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597  
宛て先 財団法人日本心臓財団



お近くにお越しの際はお立ち寄り下さい。